

2018年10・11月展示・館員おすすめの本



## 「山女へのお誘い」



暑かった夏が過ぎ去り、爽やかな秋がやってきました。これからの季節、どこかお出かけしたい！と考えているみなさん、山女はじめてみませんか？

「山女（やまおんな）」とは、登山愛好家の間で使われている、チャレンジ精神を重視して登山を楽しむ女性に対する愛称。山ガールより一歩上の山女を目指したい方に、心強い味方になる本をご紹介します。（図書館 大久保美玲）



湊かなえ『山女日記』幻冬舎 2014



妙高山、火打山、槍ヶ岳など、日本百名山に名を連ねる山々にチャレンジする女性たち。様々な悩みをかかえつつも、山に登り、己の力を試すことで、自ら道を切り開いていく姿が描かれています。登山の魅力も存分に感じることができ、読後は無性に山に登りたくなります。

田部井淳子『山を楽しむ』岩波新書 2002



世界最高峰のエベレストに女性として初登頂を果たした田部井淳子さんが、山の魅力を余すことなく語ります。「山の道は人をやさしくさせてくれる」「高所での成功のかぎはメンタル的要素」など、死と隣合わせの瞬間を何度も切り抜けた田部井さんならではの、珠玉の名言やエピソードが綴られています。



田中康弘『山怪』山と溪谷社 2015



古来より山には神が鎮座するとされ、侵してはならない領域があると言われています。カーナビが狂う山、狐火の警告など、知らず知らずに聖域に踏み込んでしまった現代人に起こった恐ろしい出来事の記録です。山に登るときは十分ご注意を。

### 〈山女入門書〉

柏澄子『はじめよう！ 山歩きレッスンブック』JTBパブリッシング 2015

唯川恵『バッグをザックに持ち替えて』光文社 2018

### 〈登山小説の名作〉

新田次郎『孤高の人』新潮文庫 2015

夢枕獏『エヴェレスト』角川文庫 2014

